

特別支援学校(知的障害・肢体不自由)と小学校との「交流及び共同学習」

<実践の概要>

学 年	特別支援学校	小学校
	小学部6年	6年(通常の学級)
交流学習の時間	10時45分から12時20分	
教科・領域等	自立活動	総合的な学習の時間
実施時期	8月下旬	
単元/題材名「自分の学校や学習について紹介しよう」		
主 な 活 動 内 容		
<p>① 自分の学校や学習について紹介 支援学校での学習の様子を紹介してほしいとの意向を受けて、持参したタブレットの写真をテレビに提示して紹介した。担任が紹介する様子を見聞きしながら、表情を変えたり、腕を動かしたりして一緒に伝えようとしていた。友達の反応に笑顔になっていた。</p> <p>② スイッチ教材を体験してもらう 持参した VOCA やスイッチを押して、うさぎの玩具やシュレッター、ドライヤーを動かして披露した。たくさん拍手をもらおうと笑顔が見られた。披露する際は、スイッチを押そうと腕をいつも以上に動かしていた。受入校の児童がスイッチの体験を通して、驚いたり楽しんだりするのがうれしかった様子で笑顔が見られた。</p> <p>③ 休憩 車椅子から降りてマットに横になり、快適に休憩できた。次の時間に向けて、法被を着て準備をした。</p>	<p>④ 6年生5グループの「調べ学習」の発表を聞いたり、体験したりする 「〇〇さんに伝えたいこと」を受入校の児童たちが考えて発表した。その発表にも参加させてもらい、友達が点てた抹茶を味見したり、一緒にソーラン節を踊ったりすることができた。また、周囲を囲んでもらい、友達のリコーダー演奏や合唱を鑑賞した。交流学習前に、事前に曲を教えてもらって聴いていたので、首や腕を動かし、表情豊かに楽しんでいる様子だった。</p> <p>⑤ 見送り 受入校児童がアーチを作って見送ってくれた。</p>	

<実践の成果と課題>

- ・3年目の通常学級との交流学習で、受入校の児童も本児もお互いのことを意識して関わっており、これまでの学習の積み上げの成果を感じることができた。教師を介さずに児童同士でのやり取りの場面で笑顔が見られたことが印象に残った。
- ・医療的ケア対象児童だが、保護者が同伴していたので安心して活動に参加することができた。
- ・普段の学校生活よりも、意欲的、主体的な様子が多く見られ、本児にとって特別で楽しみな活動であることが分かった。
- ・保護者が、同じ地域で生活していることを知ってほしいと望んで続けた学習だった。同伴して、通常学級の友達に囲まれて活動する我が子の姿を間近に見ることができる機会となった。

<これまでの効果的な取組や実践エピソード等>

- ・車椅子での移動や体温調整が難しい児童のために、活動場所を考え準備してもらい、当日は安心して参加することができた。
- ・休憩場所として教室を準備してもらった。横になれるようにマットの準備や、エアコンの温度調整などにより、快適に安心して休息を取ることができた。
- ・各活動30分の2部制、間に20分程度の休憩を取ることで、児童にとって無理なく参加できた。
- ・交流学習前に、活動で使用する曲を教えてもらい、参加に向けて準備することができた。
- ・通常学級児童の雰囲気明るく穏やかで、対象児童への優しさがあふれていた。保護者はこの子供たちだから3年間交流してほしいと思った。学習できて良かったと、涙を浮かべていた。